

会 議 録	令和 4 年12月 9 日作成	令和 8 年 3 月末日廃棄
会議名	京都府中京警察署協議会（令和 4 年度第 3 回）	
開催日	令和 4 年12月 8 日（木曜日）	
時 間	午後 1 時30分から同 3 時15分までの間（ 105分）	
場 所	京都府中京警察署 屋上及び講堂	
出席者	大東会長、岡見副会長、近藤委員、岩井委員、足立委員、清水委員、馬場委員、続委員、西田委員、長谷川明委員、中町委員 （欠席 西木委員及び長谷川侑委員） <span style="float: right;">計11人</span>	
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長代理、交通課長、警備課長、地域課長代理及び広聴・相談係長 <span style="float: right;">計11人</span>	
諮 問 事 項	1 災害装備資機材等について 2 京都府警察の災害対策について	
会 議 内 容	1 協議 <span style="float: right;">司会 副会長</span> 諮問事項説明 (1) 災害装備資機材等について～地域課長代理 (2) 京都府警察の災害対策について～警備課長 <b>【委員】</b> 災害が発生した時、警察と消防が現場活動をすると思う。レスキュー隊というと、どうしても消防を思い浮かべるが、黄色と青色の制服を着用していた方は、警察のレスキュー隊ということか。 また、現場活動において、警察と消防の役割分担はあるのか。 <b>【警察】</b> 本日、救助訓練に参加した者は全て中京警察署配置の管区機動隊員である。普段は、制服を着用して街頭活動をしているが、有事の際は機動隊員として現場活動する等の二面性を持った勤務員である。管区機動隊は、全ての警察署に配置されているわけではなく、規模の大きい警察署に配置されている。 災害発生時や大規模な警衛警備、オリンピック・パラリンピック等の大規模イベントの場合は、府県を越えて出動する任務を持っている。 消防等の役割分担については、現地指揮本部から、警察、消防、自	

衛隊等に救助活動の受け持ち地域を定めて救助活動を実施している。

また、消防とは、平時から共同での訓練を行うなど、連携を図っている。

【委員】 訓練では、負傷者のバイタルサイン等、多くの確認作業をしてから担架に乗せておられた。実際の現場では素早い行動が求められる中で、冷静な行動ができるようになるために繰り返し訓練をした上で、実際の災害現場で活動されているのだろうなと感心して見学していた。

被留置者を避難させている映像があったが、実際の現場では、避難の際に被留置者が暴れることはないのか。

【警察】 被留置者によっては、暴れる者もいるかもしれないが、適切に避難を進める。

【委員】 本日の訓練では、倒壊した家屋の高所からの救助ということが想定されていたが、実際の倒壊した家屋等に、警察官はどのような方法で臨場するのか。

【警察】 倒壊した家屋に、はしご等の資機材を利用して進入する場合や、それが困難な場合はヘリコプターから降下して進入するなど、現場の状況に応じて効果的な方法で現場対応することになる。

会 議  
内 容

【委員】 災害といっても小さな災害から大きな災害まで多くの災害があると思われるが、それぞれの出動には、どのような規模の体制で出動するのか。

【警察】 地震の規模では、震度5強で全署員出勤の上、災害対応に従事する。

【委員】 通常時の無線と災害時の無線の使い分けはされているのか。また、ロープの結び方には決まりがあるのか。

【警察】 特に使い分けはない。災害などの緊急時において、災害対応を優先して求められることから、通常無線を使って対応すべきであると考えている。

ロープの結び方は、用途に適した結び方があるが、現場ではスピードが求められるところもあり、隊員個々が現場の状況に応じて、適切な結び方を選択している。

【委員】 地域のことは、地域住民がよく知っている。消防団員は、地域住民であることから、消防団とも連携していただけたらよいと思う。

【警察】 災害対応では、地域住民、消防団と連携を密にしていきたいと考えている。

## 2 事務連絡

令和4年度第4回中京警察署協議会は、令和5年2月に実施予定である。

以上

### 第3回京都府中京警察署協議会の開催状況

